

2016年12月、アメリカ穀物協会は第6回目のトウモロコシ収穫時品質年次レポートを発表しました。本レポートは87.8%の米国産トウモロコシサンプルが米国No. 2等級かそれ以上であったことを示しています。この高品質は、主に温暖で乾燥した生育期と、その後の温暖で湿潤な登熟期と収穫期の気候によるものです。本レポートでは、2016年米国産トウモロコシが以下の特徴を以って市場に送られたことを示しています：

収穫時等級ファクターと水分含量

- 平均容積重は58.3ポンド/ブッシェル（75.0キログラム/ヘクトリットル）であり、94.9%が米国No. 1等級の下限以上であった。2015年と過去5年平均より若干高く、この容積重は穀粒の良好な充填と登熟を示している。
- 低レベルの破損粒と異物（平均0.7%）と、96.6%が米国No. 1等級の上限以下であったことから、クリーニングがほとんど必要ないことを示している。
- 平均の総損傷は2.6%であり、89.3%が米国No. 2等級の上限以下であった。
- 熱損傷は見られなかった。
- エレベーターでの平均水分含量は16.1%であり、2015年と比較して若干多くのサンプルが乾燥を必要としていたが、2014年よりは少なかった。

収穫時化学組成

- 平均タンパク質含量は8.6%（乾物ベース）であり、2015年より高かった。
- 平均デンプン含量は72.5%（乾物ベース）であった。
- 平均油分含量は4.0%（乾物ベース）であり、2015年、2014年、過去5年平均より高かった。

収穫時物理的ファクター

- ストレスクラックの割合は低く（4%）、ストレスクラック指数も低かった（8.8）。これは2015年より若干高いが、2014年と過去5年平均より低かった。この低いレベルは、収穫期の農場の乾燥状態がとてよく、ほとんど人工乾燥しなかったことを反映していると考えられる。
- 百粒重の平均は35.20グラムであり、2015年、2014年と過去5年平均より高かったことから、過去と比較して穀粒が大きいことを意味している。

¹5YA represents the simple average of the quality factor's average from the 2011/2012, 2012/2013, 2013/2014, 2014/2015, and 2015/2016 Corn Harvest Quality Reports.

- 平均穀粒容積は0.28立方センチメートルであり、2015年、2014年と過去5年平均（すべて0.27立方センチメートル）より若干高かった。
- 平均の真の穀粒密度は1.258グラム/立方センチメートルであり、2015年より若干高く、2014年とほぼ同じで、過去5年平均より低かった。
- 平均の硬胚乳の割合は79%で、2015年と同じであった。
- 完全穀粒率は平均で95.2%であり、2015年、2014年と過去5年平均より高かった。この高い完全穀粒率は、過去の年より取り扱い中の破損粒発生が少ないであろうことを示している。

収穫時マイコトキシン

- 試験した2016年のトウモロコシの1サンプルを除き、すなわち94%のサンプルが、アフラトキシンについて米国食品医薬品局（FDA）の規制レベル（20ppb）より低かった。
- 試験した2016年トウモロコシサンプルの100%が、DON（デオキシニバレノール、ボミトキシン）について、FDAの勧告レベル（豚と他の家畜には5.0ppm、家禽と牛には10ppm）より低かった。

2016/2017トウモロコシ作柄

2016年11月の米国農務省（USDA）の世界農業需給予測（WASDE）報告では、2016年の米国のトウモロコシ生産量を、史上最大であった2014穀物年度より7.11%増加の3億8,680万メートルトン（152億ブッシェル）と予測している。米国はトウモロコシの最大輸出国であり、2016/2017市場年度の世界トウモロコシ輸出の39.2%を担うと予測されている。